

# インテリアにおけるパターンコーディネートの実証考察 II

小宮容一\* 井上徹\*\*

A positive study on pattern-coordination of interior II

KOMIYA Yoichi INOUE Toru

## 1. はじめに

本論は、1998年から2006年までの9年9回に巨里本学会の大会に発表した「インテリアのパターンコーディネートに関する考察」の結論を受けて、現実にある、建築・インテリアの実例を取り上げて、実証的に考察するものである。

図表1は、結論として得た「パターンコーディネートA表」の一部である。この表は、壁パターンに床・天井のパターンを組み合わせたインテリアに対し、それを評価する形容語句を付し、一覧表にしたものである。

図1は、調査・研究に用いた床・壁・天井の8種のパターンである。

これまでの考察で言うパターンは、床・壁・天井に各種仕上げ材によって付された境界線・目地によるパターンを云ったが、実証・現象の本論においては、開口部、窓サッシ、梁や付け柱も扱うこととした。

## 2. 例1：クリスタル・ブリック/山下保博

写真1である。壁は190mm角のガラスブロックで構成されている。目地間の幅は、縦が200mm、横が23.3mmで方形格子パターンは明確である。床は300mm角の塩ビタイルである。天井は、PL4.5のフラットバーを420mm角の組んだ構造体(床組)と成っている。設計の意図は、ガラスブロックを外壁に使用し、これを構造体とするために、フラットバーの構法を考案した。床組の420mm角の構造は、ガラスブロックの方形パターンとの関係から、考案されたことは明らかである。420mm角は、ガラスブロック2×2のモジュールである。床の300mm角塩ビタイルは、インテリアデザインの常道である「目地通し」から言えば、天井と同様に420mm角の方形パターンが望まれる。

図2は、本例1の模式パターンである。パターンコーディネート研究の折りの「C3」パターン(図3)に相似である。評価は「固い」「安定した」「こまやかな」「単純な」である。本例1のインテリアも同様に評価できる。論外であるが、マテリアルコーディネートは、概して「ハード」「クール」で統一されている。また、カラーコーディネートは、テーマカラー「ホワイト」である。

(出典：新建築79/200409)

図表1. パターンコーディネートA表(パターン&評価)部分

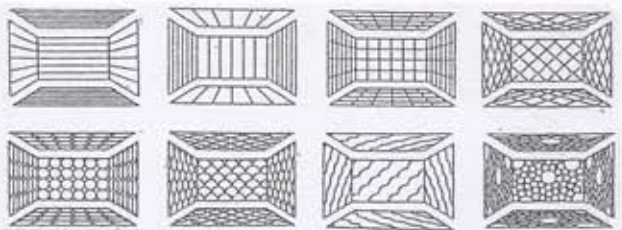


図1. 研究上の床・壁・天井の8種パターン

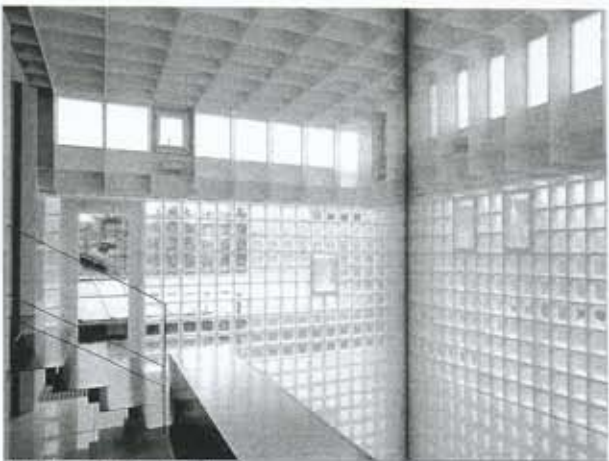


写真1. クリスタル ブリック

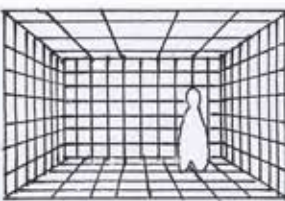


図2 例1の模式パターン



図3. 研究上のC3パターンと評価

固い 安定した  
こまやかな 単純な



### 3. 例2：SUMIKAパビリオン/伊藤豊雄建築設計事務所

写真2である。壁・天井は、60×240mmの集成材を用い、6角形を起点として60°、120°、30°、90°の角度を持ったパターンを形成している。床はモルタル金ゴテ押さえて、1辺約2500mmの変形6角形の目地が描かれている。床・壁のこまかい分節に比較すると大きいパターンである。本例2のパターンコーディネートを模式的に描くと図4となる。

図5は、パターンコーディネート研究の考察Vの段階で、取り扱った六角形（亀甲）パターンと、モザイクパターンである。この段階では、壁のみ3面のパターンであるが、117名の被験者からの六角形パターンの評価は、「安定した」「装飾的な」「硬い」であり、モザイクパターンの評価は、「雑然とした」「複雑な」「落ち着かない」である。床・天井にパターンを付けた調査からこの2パターンは外したが、経験的に判断をするならば、本例2は、六角形とモザイクパターンの融合評価として、「装飾的な」「複雑な」「落ち着かない」インテリアとなる。

本例2は、住宅ではなく、東京ガスが主催する「建築環境デザインコンペティション」の為のパビリオンである。従って、ある意味で馴染みの少ない、雑然感、意外感が望まれるところであり、パターンコーディネートとしては成功例であるとしてよい。

（出典：新建築84/200901）

### 4. 例3：ナミックスツクノコア/山本理雄建築工房

写真3である。本例3では、建物形状、インテリアの垂直ではあるが曲面した壁と、キノコ状柱が作る曲面天井、床のカーベットの曲線パターンを検討する。私の研究では、直行・直面の6面体インテリアを扱っているので、本例3では推論となる。図6は研究・考察V段階での曲線パターンの図と評価の例である。曲線パターンは、自由曲線になるほど、p16やl12の評価にある「柔らかい」「動的」或は「優しい」と評価される。本例3もそう云う評価が得られるものであるが、透明ガラス面へのパターンの付加、カーテンの柄、インテリアを構成している手摺や、建具、家具などに曲線パターンの共通性・類似性がなければ、パターンコーディネートとして、又、インテリアデザインとして成功しないと考える。（出典：新建築84/200901）

### 5. 結論

今回取り上げた3例は、例1は正方形、例2は六角形の変形、例3は自由曲線擬き（実際には円弧の連続）のパターンコーディネートであった。例1、例2は構造を含むコーディネート、例3は、設計・デザインコンセプト（夢のある建築・象徴的建築）からコーディネートと云える。すなわち、パターンコーディネートの必然性・必要性に多方面からのアプローチがあることが、証明された。

（\*声屋大学教授 \*\*同大学非常勤講師）

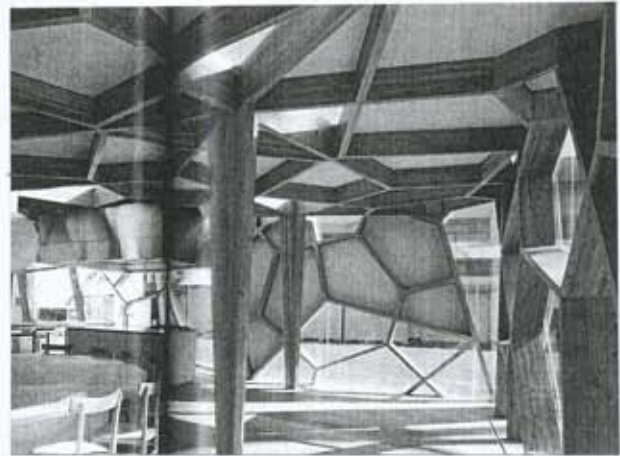


写真2 SUMIKAパビリオン

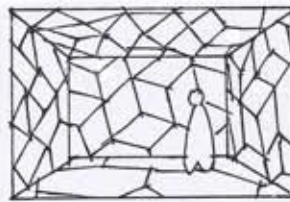
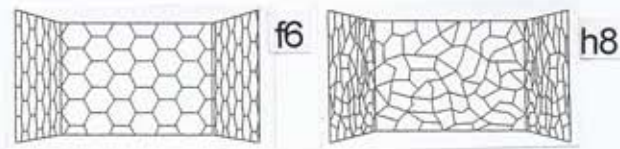


図4 例2の模式パターン



安定した 装飾的な 硬い 雑然とした 複雑な 落ち着かない

図5 壁の3次元パターンと評価(1)

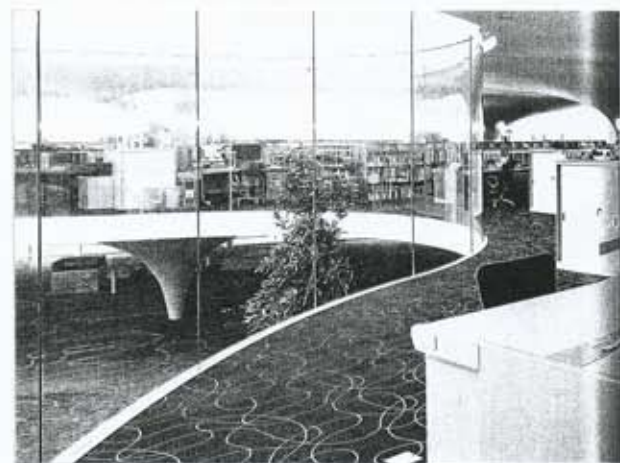
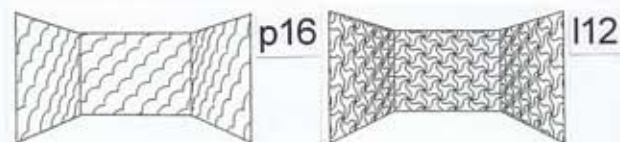


写真3 ナミックスツクノコア



さかすかしい 軽い 落ちつかない 複雑な  
柔らかい ラフな 賑やかな 動的な

図6 壁の3次元パターンと評価(2)